

質問コーナー その6



Q1. イースターって、毎年日にちが変わるって本当ですか？

A1. 本当です。イースターは「春分の日」の後に来る満月のすぐ後の日曜日と決まっています。したがって、早い年は3月末、遅い年は4月下旬になることもあります。

Q2. キリスト教では、人は死んだらどうなると信じているのですか？

A2. 聖書には、「ちりは、もとのように土に帰り、霊はこれを授けた神に帰る。」とあります。私たちは天地万物を創造された神様を信じ、罪を悔い改めて赦され、真の平安をいただいて天国の神様のもとへ帰ります。

Q3. キリスト教では「法事」などはしないのですか？

A3. 記念会は、すでに天国におられる方々を偲び、懐かしみ、思い出を語り合うひとときです。その魂は神様の側で安らかですから何も心配はいりません。また記念会を行う場所は教会だけでなく、家庭に親族が集まって行う場合もあります。

召天者合同記念礼拝

キリスト教では、イースター（キリストが復活された日）または、聖徒の日（11月第一日曜）に、先に天国へ行かれた方々を記念して礼拝を行います。

当教会では、三年ごとに召天者合同記念礼拝を行い、ゆかりのある人々が集まって故人を偲び、また墓前礼拝に出かけています。



2018年イースター

神さまとの出会い その6 70代 男性（三木市）

忘れもしない平成23年12月14日の夕方、会社からお得意先のお店まで自転車に乗って走っていた時の事です。目的のお店に着く寸前に自転車のバランスを崩し、あっという間に車道側へころげ落ち、後ろから走って来た車が急ブレーキをかけ、間一髪の所で車は止まり、私はかすり傷ひとつなく助かりました。まさに奇跡としか言いようのない出来事でした。

私はすぐにその場から起き上がりましたが、事故に遭ったという感じもせず、お得意先に資料を届け、また職場に戻って行きました。事故直後であるにもかかわらず、自分で言うのも何ですが、落ち着いていて心の乱れもなく、お得意様に資料を渡し終わるまで何事もなかったかのような感じでした。そして、時間が経つにつれ、「これは本当に神様が守ってくださったのだ。」という実感が湧いてきました。後日、この事を教会の牧師に申し上げますと、大変喜んで下さいました。

この体験を通して、神様はいつも私たちを見守ってくださることが身に染みてわかりましたので、それに感謝する意味でも、新約聖書・旧約聖書各1章ずつと聖書日課を毎日拝読して神様の御心を知り、今日一日を感謝して祈る事をおろそかにしないようにと自らを戒めました。今後もこの基本姿勢を大切にして教会・家庭・職場などで良き社会人として努力して行こうと思っています。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」

（マタイによる福音書 28章 20節）

